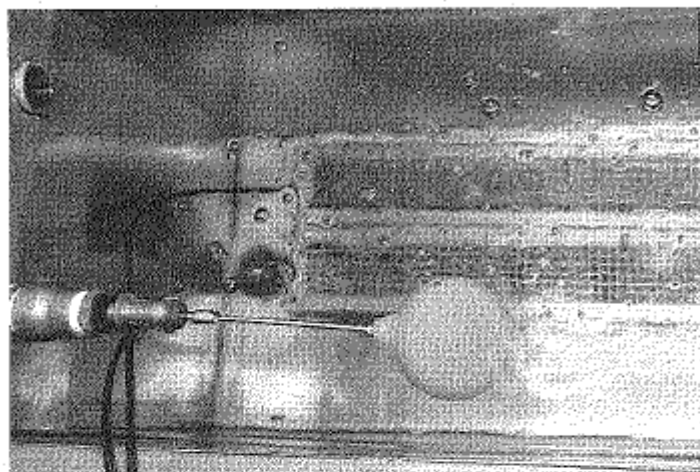


ナノバブルで配管洗浄



ケアタンク内でマイクロナノバブルを発生させる

温浴施設向け開発

東北ボーリング、1月投入

【仙台】東北ボーリング(仙台市若林区、熊谷茂一社長、022・288・0321)は、マイクロナノバブルで温浴施設の循環配管を洗浄する装置「スマートケアタンク」を開発した。2018年1月に設置・販売を始める。レジオネラ菌対策を進める入浴事業者などに訴求し、18年度に5台以上の導入を目指す。

装置は炭酸ガスを高圧で吹き出した泡により、配管に付着したぬめりなどのバイオフィルムを分解する。導入コストは120万~170万円で電気代などのランニングコストは年間10万円ほど。装置

サイズは、施設の機械室に大人2人で搬入できる程度。配管のフラッシュにつないで設置する。薬品を使わないため、休憩日を設ける必要がない。24時間稼働し清潔な状態を保つ。

塩素剤を節約でき、衛生管理の省力化も期待できる。「装置の使用後、洗浄度を示すA.T.Pの値が大幅に改善された」(科野健三事業開発部長)。
厚労省によると、レ

ジオネラ菌の感染者は増加傾向にある。毎年1000人以上が罹患し、死亡することもある。配管のぬめりなどが菌の増殖源のため、恒常的な清掃が欠かせない。

建設・エネルギー・生活